

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	◎	タクシー運転手	来客数の動き	・12月は1年間で最もタクシーの売上が良い月である。さらに、今年は12月17日から、約10%の運賃引上げが認可されたことに加え、3月26日までの冬季割増運賃も認められた。また、当社では、乗務員の採用に注力していることから、タクシーの稼働台数が前年比プラス25%となった。これらの効果が重なったことから、当社の12月の売上は、前年比プラス35%の大幅な増収となった。
	○	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・政治情勢が安定してきたこともあって、客の購買意欲が回復している。
	○	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・他社との競合状況が、前年と比べて落ち着いていることで、来客数が増加傾向にある。
	○	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・クリスマスケーキや年末のオードブルなどの催事商品の価格が上昇しているものの、客の購入点数はある程度維持できている。全体的な販売量は若干減少しているものの、商品単価が上昇していることから、売上は増加している。
	○	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・同じような形態の店舗が、どんどん閉店している。小規模な小売店が生き残っていくためには、いかに多数の優良顧客をつなぎとめ、成長できるかが重要になっている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・12月になり、降雪などによる天候不良が多発し、前年と比べて、欠航便が増えていることが気掛かりであるものの、冬の観光地を訪れるインバウンドが増え始めていることから、前年以上の集客が期待できる。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・年末の繁忙期は、例年並みの人出となり、前年と同程度の売上を確保できた。現内閣による矢継ぎ早の政策が景気を刺激しているとみられる。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・年末を迎えて、客の動きが良くなっていることから、売上がやや増えている。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・都市部、地方を問わず、競合他社からの乗換え需要が増えている。特に大型商業施設などの出張販売における客の反応が良い。
	○	美容室（経営者）	販売量の動き	・来客数は変わらないものの、ここ3か月、売上が数%増加して推移している。
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・当地では、12月に入り、物価対策として、国の交付金を活用した商品券が住民に配布されたことから、景気が上向いている。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・冬季ではあるものの、車両の輸送量が増加傾向にあることから、景気はやや良くなっている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・夜型飲食店については、店舗による差はあるものの、12月に入ってから、忘年会などによるにぎわいが少しづつみられるようになっている。一方、昼間の来街者は、依然として減少したままである。また、例年、冬休み期間に入ると、学生の来街が増加する傾向があったものの、最近は他地区の遊興施設を訪れることが増えている。学生が当地区で買物している様子もみられなくなっている。
その他サービスの動向を把握できる者〔土産〕（経営者）	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・12月の売上をみると、2024年比で120.4%、2023年比で149.4%、2022年比で202.8%、2021比で293.2%、2020年比で781.4%、2019年比で196.1%となっている。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	単価の動き	・値上げにより、日常生活の負担が増えていることで、土産を買う際も、低単価の商品を買うようにしたり、余計な物を買わないようにするといった動きがみられている。来客数はそれほど減っていないものの、客が購入点数を絞る傾向がみられる事から、12月の売上は、7月以来の前年比マイナスとなっている。

□	一般小売店 [酒] (経営者)	販売量の動き	・悪い材料は特にないものの、景気が上向くところまでは至っていない。景気は一進一退の状況にある。
□	百貨店 (売場主任)	単価の動き	・年末に向けて、来客数は好調に推移したものの、客単価が低下している。特に中間層において、値上げなどの影響から、買物を必要最小限にしたり、購入する商品のグレードを一段階引き下げるような動きが顕著にみられた。
□	百貨店 (販売促進担当)	来客数の動き	・中国以外からのインバウンドが増加していることで、売上は堅調に推移しているものの、国内客の消費については、物価高の影響が大きくなりつつある。年末にもかかわらず、必要最低限の物しか購入しない消費者が増加している。
□	スーパー (店長)	お客様の様子	・客から、物価高の話ばかりが聞かれる。ここしばらくは、景気が悪いまま横ばいで推移している。
□	スーパー (店長)	競争相手の様子	・周りをみると、競合店の出店やディスカウント店へのリニューアルが進んでおり、価格競争が激化している。特別な日には、グレードの高い商品も売れるものの、ふだんは最安値に近い価格帯の商品が販売の中心となっている。
□	スーパー (店長)	販売量の動き	・必要な商品以外は購入しないという客の様子は変わっていない。
□	スーパー (役員)	単価の動き	・年末の買物の様子をみると、マグロ、カニ、和牛など価格が多少高くても、おいしい食材の売れ行きが良かった。金を使う際には使う、メリハリのある消費になっていることがうがえる。
□	コンビニ (エリア担当)	来客数の動き	・主食である米の価格が下がらないことが影響して、来客数の減少が続いている。ただし、商品単価が上昇している分、売上は前年比プラスになっている。
□	コンビニ (エリア担当)	来客数の動き	・インバウンドの動きをみると、中国からの客は減っているものの、台湾や韓国からの客が好調なことから、全体では増加している。その結果、売上が伸びている状況が続いている。
□	家電量販店 (経営者)	販売量の動き	・暖房器具などの季節商材の販売量は前年並みであるものの、テレビや冷蔵庫の販売量が前年を下回っている。
□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・全体的に、販売目標を達成できなかった店舗が多かったことから、前月と比べると厳しい状況にある。
□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・受注台数が、前年並みの水準まで回復している。先行きに不安はあるものの、このままの状況が続くことになれば、景気は良くなる。
□	自動車備品販売店 (店長)	販売量の動き	・3か月前と比べると、来客数は85%となっている。タイヤの売上は105%となったものの、ホイールが80%、ドライブレコーダーやレーダー探知機が85%と減少傾向にある。タイヤを購入しても、ホイールまでは不要と必要な商品のみを購入する客が多く、景気は3か月前と変わらない又はやや悪くなっている。
□	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・売上の前年比をみると、12月も3か月前も余り変化がみられない。売上も増減していないことから、景況感は変わらない。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	単価の動き	・暫定税率の廃止に伴い、ガソリン及び軽油の販売価格が低下していることから、安定した動きとなっている。ただし、灯油は高値のままであるため、家計を圧迫しているとみられる。
□	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・近年の動向として、季節商材の動きが一段と鈍くなっている。また、物価高の影響により、客がコストを抑えようとする傾向が強まっており、購入単価が低下している。
□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・売上が前年をやや下回りそうなことから、景気は変わらない。ランチは低価格セットが好調であった。ディナーはふだん利用のないグループ客の来店がみられた。理由はよくわからないものの、高単価メニューの予約が多かったことから、賃上げを行った企業の従業員だったとみられる。一方、それ以外の予約客は価格の安いコースを頼むことが多かった。

□	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・観光の閑散期に入ったものの、インバウンドがまずまず来店しており、国内客も大きな増減もなく推移している。売上も変化がみられないことから、景気は変わらない。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・12月になり、客が多少増えてくることを期待していたが、前年の12月とほとんど変わらなかった。
□	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・インバウンドの予約状況をみると、中国がある程度減少しているものの、韓国や東南アジアなど他の地域の予約で穴埋めできていることから、景気は変わらない。
□	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・当地は、農業が主要産業の1つとなっていることもあって、農業関連の客が多い。今年は夏の異常気象の影響で、農産物が不作であったことから、秋冬の旅行において、グループ旅行の中止や参加人数の減少といった影響が出ている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・インバウンドやイベント関係での利用客が減少傾向にある。ただし、12月にタクシー料金の改定が行われたことで、落ち込み分をある程度カバーできている。
□	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・住宅が売れず、着工も少ないという状況が続いている。原価が高止まりしている状況も変わらない。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価上昇が続くなか、所得税の基礎控除引上げなどの減税効果を実感できるのはまだ先となることから、客の買い控えが強まっており、価格に敏感になっている様子がうかがえる。日本銀行の政策金利が引き上げられたこともマイナスである。更なる減税など国民が豊かになるような政策を積極的に進めていかない限り、消費が活発になることは考えにくい。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・中国における日本への渡航自粛呼び掛けの影響を危惧したものの、今のところ大きな影響はみられなかった。ただし、青森県東方沖を震源とする地震の影響で、ホテルに若干のキャンセルが生じた。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・物価高の影響により、客の来店頻度が低下しており、来客数の減少が続いている。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・クリスマスケーキの予約件数が余り良くなかったことから、景気はやや悪くなっている。
▲	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・例年であれば、年末に向けて、来客数が増えていく時期であるものの、今年は閑散としている。また、来店した客についても、価格にシビアな反応が目立った。
▲	乗用車販売店 (経営者)	来客数の動き	・新型車が発売されたものの、動きが鈍く、新型車効果がみられなかった。客の動きも悪いことから、様々な物の価格上昇が少なからず影響しているとみられる。
▲	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・時期的な影響もあるものの、受注状況が芳しくない。新型車に対する関心が、年明け以降、高まることを期待している。
▲	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・観光客が減っていることから、景気はやや悪くなっている。
▲	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・物価高や利上げなどの影響で、国内景気が低迷していることで、国内客の集客が落ち込んでいる。また、中国における日本への渡航自粛呼び掛けの影響で、中国及び香港からの個人客がじわじわと減少している。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・中国からのWeb予約について、キャンセルが相次いでいる。先行きが不透明なことから、これまで様子見していた客がキャンセルする動きも徐々にみられ始めている。国内客も、前年比で1割台の減少が続いている。

<p>▲</p> <p>▲</p> <p>▲</p> <p>▲</p> <p>▲</p> <p>×</p> <p>×</p> <p>企業動向関連 (北海道)</p>	旅行代理店（従業員）	競争相手の様子	・食料品や光熱費などの物価高騰が続いていることから、客の旅行予算が圧迫され、旅行そのものを控える傾向が強まっている。特に遠方からの旅行者にとっては、燃料価格の高騰により、航空券や鉄道などの交通費が高止まりしていることで、経済的な負担が増している。また、暖冬の影響による雪不足が懸念されることから、スキー・スノーボードなどの冬季スポーツ、冬のイベントへの関心が低下し、観光客の減少につながることが懸念される。
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・12月は、天候悪化による休業日が生じたことに加え、青森県東方沖を震源とする地震の影響でインバウンドの団体客の予約が入らない日もあった。これらのことから、12月の来客数は例年を約10%下回っている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・12月は、後半に客の来店が集中する傾向が顕著にみられた。できるだけ出費を控えたいと考える客の様子がうかがえる。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・商品価格や材料費が、年に2回ほど値上がりする状況が続いている。その都度、料金を上げるわけにもいかないため、厳しい状況にある。
	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・10月以降、分譲マンションのモデルルームを訪れる客の人数が減っている。問合せなどの件数も減少傾向にある。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・マンションの価格が高騰していることで、販売状況が厳しくなっている。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・年末年始を控え、金の掛かる時期であることに加え、寒い季節を迎えて、光熱費が増えることから、客の財布のひもは固い。客は必要な物だけを買っている。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・この1年、春に物価が一段階上昇し、秋に更なる物価上昇があった。客の様子をみると、この秋から節約志向が一段と進んだ状況にある。
	—	—	—
<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>□</p> <p>□</p> <p>□</p> <p>□</p> <p>□</p> <p>□</p> <p>□</p>	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・設計案件は引き続き多いものの、人材不足の影響で実施に至らず、流れことが多い。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	取引先の様子	・国内の建設投資は、公共投資も民間投資も堅調に推移している。ただし、労働力不足やインフレに伴う建設コストの増加などが続いていることは気掛かりである。
	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今期も、青果物の収穫量が少なかったことから、厳しい価格となつており、売上が減少している。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量はやや増えているものの、年明けからの値上げを前にした駆け込み需要によるものであるため、景気は変わらない。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・12月の販売量は前年比マイナス13%であった。3か月前の販売量は前年比マイナス20%であったことから、厳しい状況は変わらない。
	建設業（経営者）	取引先の様子	・民間建築について、問合せから受注につながる案件がある一方で、新築住宅にはほとんど動きがみられない。こうした傾向が、今年に入ってから続いている。ただし、リフォーム関連には一定の需要がみられる。
	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・冬本番を迎えたが、当地は季節外れの暖かさと厳しい冷え込みが交互に繰り返される状況が続いている。例年と比べると、積雪量も少なく、進行中の建設工事に雪の影響はほとんど生じていない。そのため、完工高、利益共、当初計画を上回って推移している状況は変わっていない。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・年末の駆け込み需要がまざまざみられることから、配車状況が当初の予測を上回っている。
	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・3か月前と比べて、受注量の増減が余りみられない。
	司法書士	それ以外	・相変わらず物価の上昇が続いている。特に食料品は、年末年始を迎えて価格が上昇する傾向があることに加え、鳥インフルエンザなどの影響もあって、価格高が進んでおり、苦しい状況が続いている。

	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると、売上はほぼ横ばいであった。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・建築業の業績は悪くないものの、業種によって差が出ている。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・中国において、日本への渡航自粛が呼び掛けられてから、中国便の多い国際線エリアでの売上が苦戦傾向にある。
	▲	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・日本銀行による政策金利の引上げが影響して、景気はやや悪くなっている。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新築住宅着工棟数が相変わらず減少している。今後回復するような兆しもないことから、景気は厳しい状況にある。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・販売量が減少している企業の割合が、増加している企業の割合を上回っており、減少の割合が徐々に増加している。また、販売単価が上昇している企業の割合が、低下している企業の割合を上回っているものの、上昇の割合が徐々に減少している。これらのことから、企業の景況感はやや悪化している。
	×	—	—	—
	○	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材ニーズは相変わらず旺盛である。年末ということもあって、月間求人獲得数は3か月前と比べると2割減少しているものの、12月の累計は前年から30%増加しており、企業の人才不足感に変わりはみられない。求職者も順調に増えているものの、スキルや働くモチベーションの高い人材が少なく、1次面接で見送られるケースが多い。企業のニーズと人材のミスマッチが続いていることがうかがえる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・食品製造や宿泊、不動産など一部の業種では、前年を上回る求人件数がみられるものの、全体的には求人件数の減少が目立っている。
雇用関連 (北海道)	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・業種にかかわらず、求人数は3か月前と大きく変わらない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・降雪が例年よりも早かったこと也有って、冬物衣料の動きが活発化している。企業からは、店頭における防寒商品の需要が前倒しで伸びており、業界全体としてプラスに働いているという声を聞く。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における11月の有効求人倍率は0.81倍であり、前年を0.06ポイント下回り、4か月連続で前年を下回った。
	□	職業安定所（職員）	それ以外	・ここ数か月、企業活動に変化が生じるような話題もみられず、求人数などにも変化がみられない。一部の企業からは、物価高騰や原材料価格の高騰、賃金上昇に対応できないとの話も出ている。
	□	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・新規求職登録者数が前月から減少したものの、これが景気の変化によるものかはまだ判断できない。一方、求人数に大きな変化はみられないことから、労働力需要に若干の足踏み感がうかがえる。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は横ばいで推移している。道内の景気が大きな変動もなく推移していること、慢性的な人手不足業界が求人を一定に保っていること、業種間の差が固定化しつつあることが要因として挙げられる。また、地域別の需給バランスも安定的に推移している。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数をみると、前年比マイナス10%台の大幅な減少が2か月連続している。求人数の落ち込みが大きな状況が続いたことから、景気はやや悪くなっている。
	×	—	—	—